外来

看護師長　常久 幸恵　上本 朱美

1．病棟の具体的な目標と評価

【診療科ブース】

1)安全で質の高い看護を提供する

入院支援・接遇について倫理的視点でカンファレンスを 4 回実施した。外来クラークもカンファレンスに参加でき、振り返ることができた。小児科外来の特殊な検査を明文化でき、活用している。

2)病院経営に参画する

骨粗鬆症マネージャー1 名取得でき、7～3 月継続管理料 3 を 126 件（630,000 点）算定できた。

3)患者の視点に立った医療安全を推進する

新型コロナ感染症第 8 波の流行により、12 月から入院時の疑似症患者は外来が対応し、それまで月 10 件前後だった対応件数が、12 月 55 件-1 月 133 件-2 月 90 件-3 月 99 件（年間 479 件）となった。

4)専門職としての能力開発に努める

暫定レベルからⅡ4 名、Ⅲ6 名、Ⅳ1 名の認定、外来ディクショナリーの改定を行い、小児から成人の介助の項目を追加した。救急外来 OJT 研修に 2 名受講し、救外業務を実践できるようになった。

5)看護の先輩として学生指導に携わる

産科外来の実習計画（日案）を作成し、効果的な実習ができるように配慮した。

6)活気のある職場、元気の出る職場づくりを推進する

継続的な業務改善と個人のスキルアップで、応援体制の幅が広がり、外科系と泌尿器系のブースを合併することができた。外来クラークは、各階ごとで補完できる体制となった。マインドの醸成のための定期的な勉強会とポスター掲示で「あ・な・た」言葉が定着した。

【処置センター・化学療法センター・内視鏡センター】

1)安全で質の高い看護を提供する

OJT プログラムの見直し 2 件（上部内視鏡検査介助、抗がん剤投与管理）、作成 2 件（内視鏡前処置、mFOLFOXO 投与管理）行い、内視鏡1名、化学療法1名の 2 名の育成ができた。

2)病院経営に参画する

センター内の超過勤務は 29.81％増加した。原因を分析し超過勤務削減に向けた対策に取り組む。また休憩時間に関しては、全センターで補完調整を行い休憩未取得はなかった。

3)患者の視点に立った医療安全を推進する

処置センターに来られた患者を対象として転倒転落回避の声掛けを行いエスカレーターでの転倒転落 0 件を達成することができた。継続的に病院全体で取り組む必要があるため、多職種にも協力を依頼し転倒転落の危険回避への声掛けを行っていく。

4)専門職としての能力開発に努める

暫定レベルからレベルⅡ1 名、レベルⅢ1名、レベルⅣ2 名が認定された。またセンター全体で補完業務ができる体制構築に向けて、OJTプログラムに則り 2 名の育成を行った。

5)活気のある職場・元気の出る職場づくりの推進

PNSマインド醸成のための勉強会に全員が参加した。共に働くスタッフへの思いと自分の傾向・行動をリフレクションすることで、気持ちよく働ける環境づくりのために自己の傾向を知り、他者に対する配慮の必要性について学び実践している。

表 1　外来患者数

	延べ患者数(人)	1 日平均患者数(人)	1 日平均点数	初診率(%)
令和 2 年度	168,279	692.5	3635.3	11.0
令和 3 年度	169.301	699.6	3807.9	11.8
令和 4 年度	176.742	727.3	3740.6	12.5

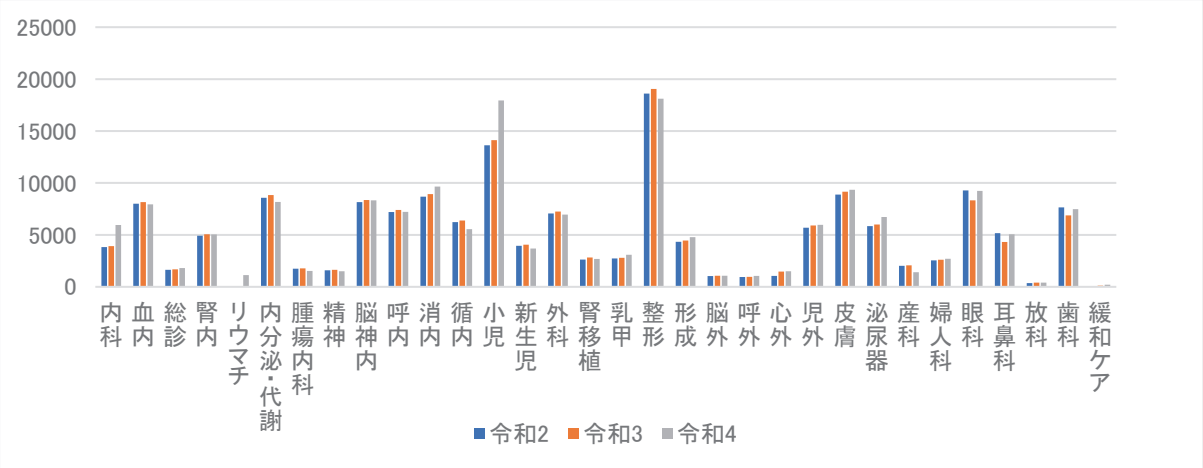

図 1　診療科別受診件数

2. 看護統計

表 2　内視鏡件数等

	上部内視鏡	下部内視鏡	気管支鏡	ERCP	EIS	カプセル内視鏡	ダブルバルーン
令和 2 年度	2615	1358	376	255	4	35	17
令和 3 年度	2688	1393	356	227	5	50	29
令和 4 年度	2591	1304	308	235	6	38	17

表 3　外来手術件数

整形外科	形成外科	眼科	外科 血管外科	皮膚科	小児外科	耳鼻科
102	105	348	45	95	4	2

表 4　診療科別外来化学療法件数

	血内	呼内	消内	乳・甲	泌尿	腫瘍内科	耳鼻	婦人	消外科	腎内科	整形	皮膚	脳外科	小児科	脳神経内科	循環器
令和 2 年度	2019	719	842	253	85	116	36	7	0	0	0	0	22	2	7	0
令和 3 年度	1975	532	1048	390	122	43	76	1	0	1	0	0	3	1	3	0
令和 4 年度	1748	565	1370	273	216	38	144	6	0	3	0	7	1	0	0	0

表 5　(外来)排尿自立指導

	指導実施患者数	指導加算料(点数)
令和 3 年度	510	102.000
令和 4 年度	336	67.200